



ペチャクチャ カナダ人 (最終回)

英語指導助手/アシュリー・ペトゥルッチ

A Bittersweet Farewell

For the first time in two years, I am speechless. My departure from Japan hovers above the horizon and yet I cannot adequately express myself. I never anticipated that anywhere besides Canada could feel like home, especially in a country where I still speak the language very poorly, and continue to stumble through even the simplest tasks. However, during my time here, I learned that language is not the sole means of communication and that the human spirit transcends many of those boggling communication troubles. I know this from the grins and wide-eyed expressions on my students' faces and from the kind manner of strangers during my daily encounters.

With great sincerity, I extend a heartfelt thank you to my students, whose bright energy was refreshing every day, to my friends and colleagues who guided me through my new life, and to everyone who ever suffered through a terrible Japanese conversation with me – many thanks for your patience! While I look forward to a long overdue reunion with family and friends in Canada, my return is not without sadness... Higashikawa captured a piece of my heart and I think that here it shall remain.

ほろ苦い別れ

この2年間で初めて、言葉を失っています。日本を去る日が近づいて、どう表現していいかわからないのです。日本語もまだ上手ではなく、本当にわずかなことでもへまをする、そんな日本がふるさとのように思える日が来るなんて、思いもしませんでした。それでも、日本にいるこの2年間で言葉だけが唯一のコミュニケーション手段ではないということや、ややこしいコミュニケーション上のトラブルも、心があれば乗り越えられると分かりました。生徒の純真なごにこ顔、そして日々新たに出会う人たちの親切さからそう学びました。



心から感謝の言葉を伝えます。活発なエネルギーで日々私を元気づけてくれた生徒たち。ここでの暮らしを導いてくれた友人や同僚。そして、私のつたない日本語につきあってくれた人々に。我慢してくれてありがとう！カナダの家族や友人との久しぶりの再会を楽しみにする一方で、寂しさもまた尽きません。東川は私の心をとらえ、この心はいつまでもこの町に残るでしょう。

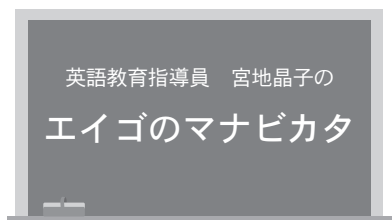
(訳：宮地晶子)

【ちょっと豆知識】

アシュリーさんがお別れの言葉で書いているように、言葉じゃないところでも通じ合えるのがコミュニケーションの面白さです。ある研究結果によると、コミュニケーションに言語が占める割合はわずか7%だそうです。55%がなんとボディーランゲッジ。つまり身振りや表情なのです。他には声のトーン（抑揚や大きさ）が38%を占めます。つまりは外国で「ぼったくられ、そうになったら、日本語でいいから怒ってみせることです。まずまず、日本人も怒るときは怒るぞ、と伝えることができます。

声に出してリズムよく読んでみてください。「運動は大事、坂東は英二」「ありがとう、オリゴ糖！」
「世界中チェ・ジュー」。
お笑いコンビ、ジョイマンのネタです。ラップのようなリズムで、語呂がいいので大人気。実にこれ、英語の世界の韻を踏む（ライミング）、に近いのです。
私たちが標語を作ると、自然と「五・七・五」調になるように、英米では詩を作る時と韻を踏みます。
Twinkle, Twinkle, little star,
How I wonder what you are!

声に出して言う「最後のstar areのあいだ」。



第51回 韻を踏む(ライミング)

母音と一緒にですね。日常でも、別れ際に「またね」というとき「See you later, Alligator」と意味なくアリゲーター（ワニ）を付けたりします。他にもシエイクスピア、カーペンターズ、ビートルズ、エリック・クラプトン、韻を踏まない人はいません。英語圏では、まずフォニックスでアルファベットと音のルールを学びますが、このときライミングが重要な鍵を握ります。マザーグースはなんと9割以上が韻を踏んでいます。口にすると語尾の音がそるって楽しいので何度でも言いたくなります。子供はこれで知らぬ間に言葉を覚えます。小さなお子さんのいる家庭ではこれを意識して、一緒にリズムよく歌えばたくさん単語が読めるようになるでしょう。